

常設展 「目もあやなオバケ王国 岡本太郎のオバケ論」

A Vivid OBAKE Kingdom: Theory of the Japanese Monster by Taro Okamoto

2024 年 7 月 12 日(金)～10 月 6 日(日)

「オバケというのは、本当に、見つめることによってあらわれるのだ。

だから、純粋に己をみつめれば誰でもが、一生のうちに大なり小なり、奇怪な分身の姿を見る。」*

オバケの姿は日本人の自由な発想力が源であると考え、日本文化としてのオバケに関心を抱いていた岡本太郎。人間の身分に構わずいたずらをしかけ笑い飛ばすオバケ。これを日本人の誇り得るものの一つであると、岡本は述べています。

岡本の作品には人間の内にある真の姿として、オバケのようなキャラクターがたびたび現れます。岡本の冷静かつ無邪気な目線から表現された世界では、ほとんど妖怪に近い姿をなした生き物が駆け回り、生を哄笑します。

本展ではオバケ同様に既存の体制に抗いながらも、愛嬌ある作品を生み出し続けた、岡本が作り出した鮮やかなオバケ王国をご覧ください。

*岡本太郎「《オバケ》このアンチ人間 下司・チンピラ幽霊は消え失せる」
『サンデー毎日』1965 年 8 月 29 日



《ノン》1970 年



《河童像》1981 年

《開催概要》

会 期:2024 年 7 月 12 日(金)～10 月 6 日(日)

会 場:川崎市岡本太郎美術館 常設展示室

休 館 日:月曜日(7 月 15 日、8 月 12 日、9 月 16 日、9 月 23 日を除く)、
7 月 16 日(火)、8 月 13 日(火)、9 月 17 日(火)、9 月 24 日(火)

観 覧 料:7 月 12 日(金)～7 月 19 日(金)、9 月 3 日(火)～10 月 6 日(日)

常設展のみ開催 一般 500(400)円、高・大学生・65 歳以上 300(240)円

7 月 20 日(土)～9 月 1 日(日)

企画展とのセット料金 一般 900(720)円、高・大学生・65 歳以上 700(560)円

※()内は 20 名以上の団体料金、中学生以下無料

主 催:川崎市岡本太郎美術館

同時開催:川崎市市制 100 周年記念「芸術は、自由の実験室一夏のアートキャンプ」展

2024 年 7 月 20 日(土)～9 月 1 日(日)

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

※本展は写真撮影可能ですが、一部撮影不可の資料がございます。

(動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)



主な出品作品

岡本太郎作品：油彩、彫刻、岡本太郎撮影写真、収集品、他 約 150 点



《夜》1947 年



《なまはげ/秋田》1957 年 2 月 12 日



《疾走する眼》1992 年

みどころ

●岡本太郎のオバケに関する考えを紹介

1950 年代後半からオバケについて興味を持ち、調べ始めた岡本太郎は、独自の視点でいくつかの記事を書いています。「現代生活に失なわれているものは、何よりもイマジネーションだ。」と語る岡本が集めたオバケについての資料、過去に語った怖い話やオバケに関する言葉を作品と合わせて紹介します。

●岡本太郎の人気作品を多数展示

《夜》《森の掟》《駄々子》《ノン》などの著名な作品から、《疾走する眼》《赤い手》《青い手》など人気作品を多数展示します。自分自身を見返すために、自分もバケモノになろうと話す、岡本太郎の精神で制作された作品の数々をご覧ください。

展示構成

- 第 1 章：岡本太郎とオバケ
- 第 2 章：美術におけるオバケ
- 第 3 章：見つめるオバケ
- 第 4 章：目もあやな人間王国

《お問い合わせ》

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：細川、片岡 広報担当：山内(pr@taromuseum.jp)
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柵形 7-1-5 生田緑地内
TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966 <https://www.taromuseum.jp>

